



ふりがな 氏名	さかきばら けいじ 榊原 敬治	都道府県	京都府	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学大学院総合生存学館博士一貫課程 ・上海大学外国語学部 / 外籍講師 			
関心・活動のSDGs				
私のESD活動	「E-learning」という教材から、持続可能な辞書、持続可能な教育を創出する試み			
活動の概要				
<p>未来の教育は、バカロレアのように多様性を受容していく、多様性に耐久しうる教育の整備が必然である。加えて、全世界の教育を受けていない人々には何が原因で教育が行き届いていないのであろうか。フィリピン、中米、南米の教育現状に直接足を運び、直接目で見て感じたことは次の3つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレスとティーチャーレス(1stissue)。 ・自宅と教育提供現場(学校など)の距離(2ndissue)。 ・教育重要性の低い認識(3rdissue)を挙げる。 <p>これらの問題にアプローチして、解決しうる手段に、私は「E-learning」の可能性を挙げる。E-learning はプラグ(電気供給)と受信機(モニターなど)さえあれば、地球上どこでも教育実施が可能(1stissue と 2ndissue の解決策)と考える。上述 3rdissue では、別途アプローチが必要だが、知識の宝庫であるインターネットに E-learning を介在してアクセスすることが問題解決の糸口になりうると考える。</p> <p>私のこれまでの取り組みは、E-learning の可能性(①)を訴え、効果的なツールの開発(②)、そして普及(③)の過程に渡る。2016年～2018年の2年間にかけ、上海の大学と高校にて E-learning の重要性と可能性を主張する研究会やシンポジウムで発表(①)。「すららネット」が提供する E-learning コンテンツを一時借用し活用(②)。メキシコ(約1年)では工学専攻の大学生と共に E-learning 教材の開発と、学習者群のみで持続可能な辞書の試行的開発に成功(②)。そして上海市の高校では、E-learning での基礎科目(国語・数学・英語)学習時の導入に成功した(③)。</p>				
私が考える教育の未来像				
<p>近年の教育現場の動きを洞察してみると、多様化の一線をたどっていると考える。そのフィールドや学習者に合った教育を、瞬時にオーダーメイドする環境と、そしてこの多様性に耐久しうる教育の整備が必然であると考えます。</p> <p>そんな中、今日あふれる教育の種類や質に対して、自身で以下に求めていたものに合った教育を選択していくかという、『<u>教育の選択性</u>』が登場すると考える。そこを養ってくれるのが『<u>学習ストラテジー</u>』である。</p> <p>教育の世界は、知識を効率よく伝授する形態から、この『<u>学習ストラテジー</u>』をいかに育成できるかへとシフトしていくと考える。</p>				
私の強み、活かせる経験やスキル				
<p>私の武器は「言語」と「統計処理能力」である。「言語」に関しては、現在 5 か国語でのコミュニケーションが可能であり、言語習得は人より早い。また言語運用の観点は教育の場面でも多くのファクターが絡んでおり、上述の E-learning や持続可能な辞書作成という点では、有用な要素と言える。一方の「統計処理能力」の面では、物理で理学学士を取得、そして大学院では言語学や音響学を統計処理という観点から研究した経験があり、この知識等は今後の研究活動や取り組みをより拡充していくのに大いに役立つと考える。また、上海で約 2 年、メキシコで約 1 年の計 3 年の日本語教育の経験があるため、今後も SDGs や ESD が掲げる取組に大いに活かせると思う。</p>				